

増子和郎さん 還暦でも柔道への情熱衰えず(人きのうきょう)

名古屋の増子病院院長増子和郎さんは、名大柔道部OB会長でもある。還暦を迎えたが、燃える情熱を抑え難く、隔週土曜日の午後は、名大柔道場で後進の指導に汗を流す。得意の崩れ上四方固めを使えば、1年生ならまず参る。

名大2年の25年、合併された旧制8高、名高商などをまとめて柔道部を創設、2代目主将となり、東海学生柔道連盟を組織した中心人物の1人。53年、会員250人のOB会長に。以来、旧7帝大大会などの競技会から新入部員の歓迎や卒業コンパまで、現役の先頭に立って無欠席を続ける。

その情熱に動かされた講道館から58年、3段を贈られた。ただ、道場においても気になるのは患者さんの容体。専門は肝臓だが、道場においてもポケットベルで、呼び戻されることも多い。「けど柔道のお陰で体がぼかぼか。家では素足、足はフトンから出して寝ます。頭だけはちょっぴり寒いが」

(肩書き等は当時のもの)